



新国立劇場 2026/2027 シーズンオペラ 開幕公演

ロッシーニ イタリアのトルコ人 **新制作**

Il Turco in Italia / Gioachino Rossini

2026年10月2日(金)～10月12日(月・祝)

会場:新国立劇場オペラパレス 2026年7月11日(土) 10:00～ 前売開始



令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業



テアトロ・レアル 2023 年公演より ©Javier del Real | Teatro Real

本当の愛はどこにある？ロッシーニのチャミングなオペラ・ブッファが初登場！

ロッシーニの隠れた名作『イタリアのトルコ人』を新国立劇場初上演。浮気性のヒロインと堅物の夫、セクシーなプレイボーイのトルコ王子、トルコ王子の元恋人と、もつれにもつれあう恋の鞘当てが、次々登場する軽やかなアンサンブルで繰り広げられます。

演出は人気絶頂の演出家ロラン・ペリー！

ロラン・ペリーの演出(テアトロ・レアル、リヨン歌劇場との共同制作により2023年マドリッドで初演)はイタリア発祥の“フォトノベル”がコンセプト。ペリー一流のセンスで、フォトノベルのロマンスに夢中なヒロインの奔放な空想の物語に変貌します。二次元の世界に出たり入ったりするように活き活きと躍動する人物、目に耳に楽しくかわいらしい、しゃれっ気いっぱい大人の恋愛劇が客席を沸かせます。

絶賛の嵐を巻き起こしたソプラノ、クラウディア・ムスキオ待望の再登場！

注目のヒロイン・フィオリッラには、24/25 シーズンオープニング『夢遊病の女』に彗星のように登場し、大評判を巻き起こした新星ソプラノ、クラウディア・ムスキオが登場。トルコ王子セルムには、ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルやパリ・オペラ座で大躍進中のアレハンドロ・バリニャス・ビエイテス、ヒロインの夫ジェローニオにブッフオ役の名人パオロ・ボルドーニヤと、ロッシーニファンお待ち兼ねの顔合わせ。指揮はイタリアの若手注目株、アレックス・ボナートです。

<資料のご請求、取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当:高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y1307@nntt.jac.go.jp

スタイリッシュでお洒落なフォトノベルの世界へようこそ！



『アルジェのイタリア女』の大成功後に書かれたロッシーニのオペラ・ブッファ『イタリアのトルコ人』を新国立劇場初上演。ヒロインとプレイボーイのトルコ王子の恋の駆け引き、ヒロインに翻弄される堅物の夫、トルコ王子の元恋人と、もつれにもつれあう恋の鞘当てが、二重唱、三重唱、四重唱と次々登場するアンサンブルで軽やかに繰り広げられます。喜劇を仕立てようと画策する詩人が狂言回しとなる秀逸な構成も注目ポイントです。

ロラン・ペリーの演出(テアトロ・レアル、リヨン歌劇場との共同制作により 2023 年マドリードで初演)はペリーらしい洒落な機知に富み、イタリア発祥の“フォトノベル”—写真や吹き出しの入ったメロドラマ風のロマンス小説—がコンセプトの中心。作品本来のメタシアター的な構成を発展させ、フォトノベルに夢中なヒロインの奔放な空想の物語に変貌させます。二次元の世界に出たり入ったりするように躍動する人物、目に耳に楽しくかわいらしい、洒落た展開が客席を沸かせます。



人気絶頂のロラン・ペリー演出！最高の顔合わせで魅せる極上のロッシーニで新シーズン開幕！

注目のヒロインのフィオリツラには、24/25 シーズンオープニング『夢遊病の女』に急遽登場し、大評判を呼んだソプラノ、クラウディア・ムスキオが登場。トルコ王子セリムには、パリ・オペラ座で大人気の若手歌手アレハンドロ・バリニャス・ビエイテス、ヒロインの夫ジェローニオにブッフォ役で大人気を博すパオロ・ボルドーニャと、ロッシーニファン垂涎の顔ぶれです。

指揮はイタリアの若手注目株アレッシンドロ・ボナート。ロッシーニの聖地ペーザロで毎夏開催されるロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演を重ねる、フレッシュで勢に乗ったメンバーが贅沢に揃います。



左上より A.ボナート、L.ペリー、A.バリニャス・ビエイテス、C.ムスキオ、P.ボルドーニャ、R.ガティン、B.タッディア、但馬由香、山本康寛

「イタリアのトルコ人」ダイジェスト映像

https://www.youtube.com/watch?v=_YVyhO_4XS0

<あらすじ>

フィオリツラは夫ジェローニオとの生活に飽き飽きしていた。折しもナポリにやってきたトルコ王子・セリムに目を付け、恋の駆け引きを楽しむフィオリツラ。セリムに未だに想いを寄せる元恋人・ザイダも絡んで事態はもつれ始める……。そんなドタバタ騒ぎを横目で見るのは詩人プロスドーチモ。喜劇のいいネタができた喜び、夫ジェローニオや、フィオリツラの取り巻きナルチーゾたちをけしかけていく。ジェローニオはフィオリツラの、ザイダはセリムの気持ちを取り戻せるのか？



芸術監督・大野和士からのメッセージ



2026/2027 シーズンオープニングは『イタリアのトルコ人』で飾ります。テアトロ・レアル、リヨン歌劇場との共同制作で 2023 年にマドリードで初演されたプロダクションです。何人もが絡んだ恋愛のドタバタ劇に、ロッシーニは優美で気の利いたアリア、二重唱、三重唱、そして壮大なスケールのフィナーレを与えて、魅力的なオペラに仕上げました。上演の機会が多くない作品ですので、ぜひお見逃しのないようご覧ください。

演出はロラン・ペリー。新国立劇場では『ジュリオ・チェーザレ』でのエジプトの博物館を舞台にした名プロダクションをご記憶の方も多いと思います。彼は常に私達におしゃれで少しスパイシーな舞台を届けてくれます。指揮はイタリアの俊英アレッシンドロ・ボナートが新国立劇場初登場です。『夢遊病の女』で新国立劇場に急遽デビューした新星クラウディア・ムスキオがフィオリツラで再登場。彼女のチャームで明るい存在感をより印象づける役になるでしょう。さらにバリニャス・ビエイテス、ボルドーニャ、ガティン、タッディアと、ロッシーニにはこの上ない顔ぶれが揃いました。シーズン開幕に、観客の皆様も新しい気持ちで聴いていただけるのではないかと考えています。

令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

文化庁劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業により、『イタリアのトルコ人』に

小学生～18歳以下の方129名様をご招待します。この絶好の機会に初めてのオペラ鑑賞をぜひご体験ください。

【対象公演日】 2026年10月12日(月・祝)13:00 *ご招待人数:計129名様

【受付期間】 2026年7月11日(土)～10月11日(日)

詳細はこちら https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_031383.html

<主要キャスト・スタッフプロフィール>**【指揮】アレッサンドロ・ボナート****Alessandro BONATO**

若手世代のイタリア人指揮者で最も注目を集める一人。ヴェローナ出身。マルキジアーナ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を2年務め、25/26シーズンよりボルツァーノのハイドン管弦楽団首席指揮者。ドナート・レンツェッティ指揮者アカデミー修了。23歳でコペンハーゲンのマルコ国際コンクール第3位に入賞。2016年にマスカット・ロイヤル・オペラ『魔笛』でデビューし、19年ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『結婚手形』を指揮。22年にマテラータ音楽祭、翌年ヴェローナ野外音楽祭にデビュー。最近では、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団のヴェルディ『レクイエム』、アルメニア国立歌劇場『オテロ』、キャリアリ歌劇場『La monacella della fontana』、フィレンツェ歌劇場『愛の妙薬』を指揮。26年夏にはペーザロ・ロッシーニ・オペラフェスティバルで『なりゆき泥棒』を指揮する予定。コンサートでは、スカラ座フィル、RAI交響楽団、トスカニーニ管弦楽団などのほか、デンマーク国立交響楽団、オマーン王立交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交響楽団などと共演。24年のスカラ座アカデミー管弦楽団ヴェルディ・プログラムが特に好評を博す。同年のフィレンツェ五月音楽祭管弦楽団ロシア・プログラムも高評を得る。「Forbes Italia」誌の2025年「世界を変える30歳未満」ノミネート。新国立劇場初登場。

**【演出・衣裳】ロラン・ペリー****Laurent PELLY**

世界の著名劇場で活躍するフランスの演出家・衣裳デザイナー。2025/26シーズンは、シャンゼリゼ劇場のオッフエンバック『ロビンソン・クルーソー』、テアトロ・レアル『売られた花嫁』、グライントボーン音楽祭『ナクス島のアリアドネ』といった新制作のほか、『ファルスタッフ』『エフゲニー・オネーギン』『夏の夜の夢』『連隊の娘』など多くの再演作品が上演された。近年の作品に、テアトロ・レアル、デンマーク王立歌劇場、ブルノ国立劇場『ニュルンベルクのマイスタージンガー』(2025年「プレミオス・オペラ XXI」最優秀演出賞)、フィルハーモニー・ド・パリ、ストラスブール・ラン歌劇場のミュージカル『ジブシー』、スカラ座、アン・デア・ウィーン劇場『オペラ・セリア』、テアトロ・レアル、新国立劇場『イタリアのトルコ人』、オペラ・コミック、ラン歌劇場『ラクメ』、グライントボーン音楽祭『人間の声／テイレシアスの乳房』、オランダ国立オペラ、ジュネーブ大劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、ロサンゼルス・オペラ『チェネレントラ』、テアトロ・レアル、モネ劇場、東京二期会、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、リセウ大劇場『ファルスタッフ』、サンタフェ・オペラ、セイジ・オザワ松本フェスティバル『フィガロの結婚』など。最近手がけた演劇には、ゴールドーニ作『スミルナの興行主』、俳優ジャック・ガンブランと協働したメアリー・チェイス作『ハーヴェイ』フランス初演などがある。26/27シーズンは、リヨン歌劇場、ラン歌劇場『三つのオレンジの恋』、ジュネーブ大劇場『ランスへの旅』の新演出を予定。新国立劇場では22年『ジュリオ・チェーザレ』を演出。

**【セリム】アレハンドロ・バリニャス・ビエイテス(バス)****Alejandro BALIÑAS VIEITES**

スペイン出身。2021年から23年までパリ・オペラ座アカデミーに、23/24シーズンはパリ・オペラ座に新設されたカンパニー The Opera Troupelに在籍し、同劇場で『ポッペアの戴冠』セネカ、『絹のはしご』ブランザック、『カルメン』スニガ、『シモン・ボッカネグラ』ピエトロなどの役に出演。アカデミー在籍中、優れた表現力と将来性によりAROP賞、カルポー賞を受賞。21年にペーザロのロッシーニ・アカデミーに参加し、『ランスへの旅』ドン・プロフオンドに出演後、22年、24年のロッシーニ・オペラ・フェスティバルにも登場。23年にはザルツブルク音楽祭ヤング・シンガーズ・プロジェクトに参加し『ギリシャ受難劇』に出演。24年「新しい声」コンクール第1位及び観客賞、若い観客賞、パタゴニア特別賞受賞。24年セビリア・マエストランサ劇場『トゥーランドット』ティムールに出演。これまでに、パリ・オペラ座、ソフィア王妃芸術宮殿、ベルリン・ドイツ・オペラ、バーゼル歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場などに登場。クリストフ・ロイとの協働でも伝統に新風を吹き込んでおり、若手バス歌手をリードする存在である。25/26シーズンはアン・デア・ウィーン劇場『ベナムール』、ディジョン歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレツコ、リセウ大劇場『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。新国立劇場初登場。

**【ドンナ・フィオリツァ】クラウディア・ムスキオ(ソプラノ)****Claudia MUSCHIO**

イタリア・ブレーシャ出身。フェッラーラ・フレスコバルディ音楽院修了。2017年ナポリ・サン・カルロ歌劇場『魔笛』パミーナでデビューし、18年にモデナ・パヴァロッティ劇場『セビリアの理髪師』ロジーナに出演。ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、キャリアリ歌劇場などに出演を重ねる。21年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『愛の妙薬』アディーナに出演。20/21シーズンからはシュトゥットガルト州立劇場専属歌手となり『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『子どもと魔法』火／お姫様、『フィガロの結婚』スザンナ、『アルチーナ』モルガナ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、『愛の妙薬』アディーナ、大成功を収めた『夢遊病の女』アミーナ、『魔笛』パミーナ、『リゴレット』ジルダなどに出演。23年のOpernwelt誌年間ベストシンガー、ベスト・ヤングシンガー賞ノミネート。25/26シーズンは、シュトゥットガルト州立劇場『利口な女狐の物語』女狐、『リゴレ



ット』ジルダ、『夢遊病の女』アミーナ、『カルメル会修道女の対話』コンスタンス、『セビリアの理髪師』ロジーナに出演。26年夏にはヴィルバード・ロッシーニ音楽祭『泥棒かささぎ』にニネッタに出演する。新国立劇場へは24/25シーズン開幕公演『夢遊病の女』アミーナに急遽出演してデビューし、絶賛された。

【ドン・ジェローニオ】パオロ・ボルドーニャ(バス・バリトン)

Paolo BORDOGNA

イタリア出身。今日最高のブッフオ歌手のひとり。ペーザロのロッシーニ・アカデミーでアルベルト・ゼッダの薫陶を受け、ロッシーニ作品はもちろん、ドニゼッティ、モーツァルトのブッフオ役を中心に、そのレパートリーは16世紀から現代作品まで50以上の役柄を擁する。2005年以降、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルの常連として『新聞』『結婚手形』『泥棒かささぎ』『絹のはしご』『チェネントラ』『セビリアの理髪師』『ひどい誤解』などに出演。イタリアの主要歌劇場のみならず、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、テアトロ・レアル、リセウ大劇場、ワシントン・ナショナル・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、シドニー・オペラハウス、カナディアン・オペラ・カンパニー、北京国家大劇院、マリンスキー劇場など世界各地において活躍している。直近では、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場での『愛の妙薬』ドゥルカマーラ、ローマ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、ウィーン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場『セビリアの理髪師』バルトロ、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場『フィレンツェの麦わら帽子』などに出演した。録音・映像も豊富で、数多くのCD、DVDをリリースしている。新国立劇場では20年『セビリアの理髪師』バルトロに出演した。



【ドン・ナルチーゾ】ルジル・ガティン(テノール)

Ruzil GATIN

モスクワ大学卒業後、カザン音楽院で声楽を修める。2016年AsLiCoコンクールで優勝し、『トウランドット』パン役でデビュー。続いてパヴィア、コモ、クレモナで『イタリアのトルコ人』ドン・ナルチーゾに出演。ペーザロのロッシーニ・アカデミーに参加し、17年『ランスへの旅』リーベンスコフ、翌年『リッチャルドとゾライーデ』ザモーレに出演。ミラノ・スカラ座アカデミー公演『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演。ボリショイ劇場へは『ランスへの旅』でデビュー後、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオに出演。19年にデンマーク王立歌劇場へ『セビリアの理髪師』でデビュー。ミラノ・スカラ座『ロメオとジュリエット』ティバルト、フィレンツェ歌劇場『セビリアの理髪師』『ドン・ジョヴァンニ』、リヨン歌劇場『モイーズとファラオン』アメノフィスなどに出演。『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵は、マチェラータ音楽祭、リエージュ・ワロン歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場などで出演を重ねる。最近では、パレルモで『イングランド女王エリザベッタ』ノーフォーク、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、ナポリ・サン・カルロ歌劇場『連隊の娘』トニオ、ワロン歌劇場『フィレンツェの麦わら帽子』ファディナールなどに出演。26年夏はマチェラータ音楽祭『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵に出演予定。新国立劇場初登場。



【詩人プロスドーチモ】ブルーノ・タッディア(バリトン)

Bruno TADDIA

イタリア出身。ヴァイオリニストとして活動後、2001年のロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』アルヴァーロでオペラデビュー。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、シヤトレ座、シャンゼリゼ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、リセウ大劇場など世界各地で『セビリアの理髪師』フィガロ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『オーリードのイフィジェニー』オレステ、『ドン・パスクワレ』マラテスタ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどへ出演。最近の成功作に、モネ劇場『パスタルダ』ノッティンガム、プッチーニ・フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、カリアリ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、トリエステ歌劇場『ドン・パスクワレ』マラテスタ、コラド・オペラ、フィレンツェ歌劇場、ジュネーヴ大劇場『セビリアの理髪師』フィガロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、『ドン・パスクワレ』タイトルロールがある。25/26シーズンはジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』レポレロ、モンペリエ歌劇場『ファルスタッフ』、フェニーチェ歌劇場『愛の妙薬』ドゥルカマーラなどに出演。新国立劇場では25年『蝶々夫人』シャープレスに出演した。



【ザイーダ】但馬由香(メゾソプラノ)

TAJIMA Yuka

武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。第31回飯塚新人音楽コンクール第1位。藤原歌劇団には『ラ・チェネントラ』テイズベ、『椿姫』アンニーナ、『ランスへの旅』モデスティーナ、『セビリアの理髪師』ベルタ、『ノルマ』クロティルデ、『蝶々夫人』スズキ、『ファウスト』シーベルなどに出演。2018年、24年『ラ・チェネントラ』ではタイトルロールのアンジェリーナに出演し好評を博す。そのほかベートーヴェン『第九』、ヘンデル『メサイア』、モーツァルト『レクイエム』『戴冠ミサ』などの宗教曲のソリストやコンサートでも活躍している。新国立劇場では『夏の夜の夢』ハーミア、『蝶々夫人』スズキ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』メルセデス、同『蝶々夫人』スズキに出演。マエストロラ音楽院講師。藤原歌劇団団員。



【アルバザール】山本康寛(テノール)

YAMAMOTO Yasuhiro

京都市立芸術大学大学院修了。日本音楽コンクール第 2 位、飯塚新人音楽コンクール第 1 位、平和堂財団芸術奨励賞、青山音楽賞[音楽賞]、五島記念文化賞オペラ新人賞など数々受賞。びわ湖ホール声楽アンサンブル専属歌手として 6 年在籍したのち、五島記念文化財団(現:東急財団)の奨学生として渡伊。びわ湖ホール『死の都』(日本初演)では主役のパウルに抜擢、2016 年ペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバルでは『ランスへの旅』でイタリアデビュー。日生劇場『セビリアの理髪師』『魔笛』、藤原歌劇団『ラ・チェネントラ』、日本オペラ協会『紅天女』(新作初演)などに出演している。新国立劇場では『ウィリアム・テル』リュオディ、鑑賞教室『カルメン』レメンタードに出演。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員。



新国立劇場 2026/2027 シーズンオペラ
令和8年度 文化庁 劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

ジョアキーノ・ロッシーニ
イタリアのトルコ人<新制作>
Il Turco in Italia / Gioachino Rossini
全2幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

【公演日程】 2026年10月2日(金)18:00/4日(日)14:00/7日(水)14:00/10日(土)14:00/12日(月・祝)13:00
【会場】新国立劇場 オペラパレス
【チケット料金】 S:31,900円・A:26,400円・B:19,250円・C:12,100円・D:8,250円・Z:1,980円
【前売開始】 2026年7月11日(土) 10:00~

指揮	アレッサンドロ・ボナート	セリム	アレハンドロ・バリニャス・ビエイテス
Conductor	Alessandro BONATO	Selim	Alejandro BALIÑAS VIEITES
演出・衣裳	ロラン・ペリー	ドンナ・フィオリッラ	クラウディア・ムスキオ
Production and Costume Design	Laurent PELLY	Donna Fiorilla	Claudia MUSCHIO
美術	シャンタル・トマ	ドン・ジェローニオ	パオロ・ボルドーニャ
Set Design	Chantal THOMAS	Don Geronio	Paolo BORDOGNA
照明	ジョエル・アダム	ドン・ナルチーゾ	ルジル・ガティン
Lighting Design	Joël ADAM	Don Narciso	Ruzil GATIN
演出補	クリスティアン・レート	詩人プロスドーチモ	ブルーノ・タッディア
Revival Director	Christian RÄTH	Prosdocimo	Bruno TADDIA
衣裳補	ジャン＝ジャック・デルモット	ザイダ	但馬由香
Associate Costume Designer	Jean-Jacques DELMOTTE	Zaida	TAJIMA Yuka
		アルバザール	山本康寛
		Albazar	YAMAMOTO Yasuhiro

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic

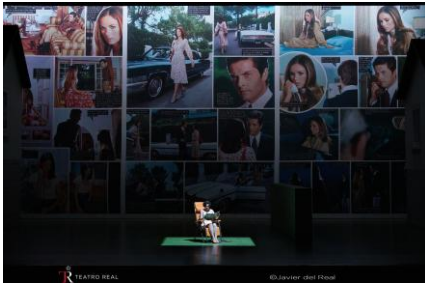
芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

共同制作:テアトロ・レアル、リヨン歌劇場
Co-production with Teatro Real of Madrid, Opéra National de Lyon

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/ilturcoinitalia/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

本公演の告知では、テアトロ・レアル公演の写真をご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】



【11】



【12】



【13】



【14】



【15】



【16】

テアトロ・レアル 2023 年公演より © Javier del Real | Teatro Real